

世界と“ヒロシマ”

弥富北中学校
はっとり 服部
こうせい 煌世

【終わりの見えない核の世界】

1991年に冷戦が終結し、アメリカとロシアは核兵器を減らしましたが、世界は核によるテロリズムの脅威や、核・ミサイル開発を進める北朝鮮の動向、またロシアとウクライナの問題など、新たな危機に直面しています。

核兵器を廃絶するためには、世界の国々の協力が必要であると思います。国連において、核兵器禁止条約が採択されましたが、核保有国と核の傘の下にある国々は加わっていません。そのため、全ての国が加わるような核兵器削減の取組が今後の課題となっています。

【広島研修を終えて】

広島研修を終えて、世界を動かすために大切であるものは、自分たち「一人一人の力」であると考えました。「一人一人の力」が集まれば、国や世界を動かすことができると考えたからです。しかし、「一人一人の力」で平和を創り出すためには、世界に対する正しい知識が必要であると思います。そのため、学校で勉強したり、インターネットや本で情報を得たりするなどして、社会の動きを学び、仲間や家族と話し合うことから始めたいと思います。



図書館だより

市役所図書館 ☎65-1117



ホームページ



X(旧ツイッター)

新しく入った本



会った魚がわかる図鑑
杉本 幹/監修



プラチナハーケン1980
海堂 尊/著



おとなも子どもも
知りたい生成AIの教室
鈴木 秀樹/監修

図 書 名	筆 者 名 など
●まわり道を生きる言葉	大村 智
●地図でスッと頭に入る世界の国力ランキング	鈴木 達人
●おせっかいな化石案内	芝原 暁彦
●至福のチーズケーキ本	空想喫茶トラノコク
●わたしの知る花	町田 そのこ
●人生は苺ショート	林 真理子
●世界を握りつくせ！	アレクサンドラ スチュワート

図書館では、幅広い年齢層に楽しんでいただけるよう、資料の貸し出しだけでなく、読書会やボランティアによる読み聞かせを行っています。

よつば読書会

- と き 10月12日(土)午前10時～正午
 - と ころ 弥富まちなか交流館
2階ミーティングルーム
 - テキスト 「六人の嘘つきな大学生」
(浅倉 秋成/著)
- ☆1冊のテキストを会員同士で読み、意見や感想を述べあいながら、読書の領域を広げていきます

おはなしの会

- 対象者 幼児～小学校低学年向き
- と き 10月5日(土)【わらべ】
10月19日(土)【おはなしくまさん】
午後3時～3時30分
- ところ おはなしのへや(図書館内)
- 内 容 絵本や紙芝居の読み聞かせ

■特別整理期間に伴う休館のお知らせ

11月11日(月)から21日(木)までは、蔵書点検を行う特別整理期間のため休館します。
閉架書庫に所蔵されている資料は、10月22日(火)から11月21日(木)までに蔵書点検を行うため、ご利用できません。

■開館時間 火・水・木・金曜日 午前9時～午後7時 土・日曜日、祝日(月曜日を除く) 午前9時～午後5時

広島研修から学んだこと

弥富北中学校
ながひさ 永久
おうすけ 桜輔

【平和記念公園を見学して】

平和記念公園を訪れていた人々の半数以上が、海外から来た人たちでした。海外から来た人たちが、写真を撮ったり、悲しそうに動画を見たりしている姿が印象に残りました。自分はアメリカの人たちは、「真珠湾に攻撃した日本が悪い」と考えていると思っていたのですが、自分たち以上に世界の平和について考えている人たちがたくさんいることを知り、とても驚きました。



【広島研修を終えて】

広島研修を終えて、昔の人たちが今の平和な日本をつくってくれたことに感謝して生活していかなければならないと感じました。自分たちが食べた「しげるちゃん弁当」は、戦時中であつたら豪華な食事であつたかもしれませんが、今では全くそうは思えません。しかし、現代を生きる私たちが、「しげるちゃん弁当」を食べることで、平和について考える大事なきっかけになると思います。今ある当たり前の日常に感謝しながら、毎日を大切に生きていきたいと思います。



ガイドボランティアが体験した

伊勢湾台風

伊勢湾台風から9月26日で65年が経過しました。このコーナーでは、現在ガイドボランティアとして活躍しているメンバーの被災体験を紹介します。

② 今でも忘れられない恐怖

当時、私は小学3年生で、あの日は風雨が怖くて妹と一緒に母にしがみつき、耳をふさいでいた。いきなり台所の窓が割れたので、父が板を打ち付けられるよう、母、自分、妹で窓を必死に押さえた。割れたガラス越しに吹き込んでくる風は強く、家は風にあおられギンギンと音を立て、雨漏りもすごくてとても怖かった。

風雨が少し和らいだ気がしたとき、突然半鐘が鳴り、「避難しろー！」という声が聞こえた。父と外の様子をうかがうと、北から水を跳ねながら逃げてくる人たちを見た。水は家の前まで押し寄せてきていて、すぐに家族みんなでジャバジャバと水を切りながら走り、高台の南部保育園(現在の竹長押茶屋の位置)まで逃げた。そこでは地域の議員さんが「男性の方は土のう積みに出てくださいー！」と呼びかけていて、父も作業に参加した。私たちには「今、皆さんに土のうを積んでもらっているので安心してくださいー！」と声をかけて励ましてくれた。

夜が明けると家の周り一面が浸水して海のようになっていて、自宅は平屋だったので屋根しか見えなかった。あの日聞いた電線が風を切るヒューヒューという音には、今でも恐怖を感じる。(佐藤恒男)

